

(別記)

扶桑町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、主食用米水稻を中心に作付けされており、主食用米の需要が減少する中、集団で麦の転作や飼料用米の作付けを転換することで、水田面積の維持を図っている。

また、都市近郊であるため農地転用が進み、農家の高齢化とともに土地持ち非農家が増える中、不作付地とならないよう担い手への集積を進め、かつ、効率的な作業となるよう面的集積を進めていくことが課題である。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

前年の需要動向や集出荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。ニーズに応じた生産と安定取引を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

麦に次ぐ転作作物に位置づける。飼料用米の生産拡大にあたっては、主食用米品種での対応とし、産地戦略枠を活用し所得を増加させるため、作付面積を増やしていく。

(3) 麦

麦については、産地交付金の産地戦略枠を活用し、生産性向上等の取組を推進しながら、需要者の要望に即し計画生産していくとともに、平成30年度における麦の作付面積は18haとする。

(4) 不作付地の解消

地域の推進品目（麦・飼料用米）の作付や担い手への集積を推進し解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 28 年度の作付面積 (ha)	平成 29 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	6.1	6.1	5.8
飼料用米	2.6	2.6	3
米粉用米	0	0	0
WCS 用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	1.5	1.5	1.8
大豆	0	0	0
飼料作物	0	0	0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	0	0	0
野菜	0	0	0

4 平成 29 年度に向けた取組及び目標

取組番号	対象作物	取組	分類※	指標	平成 28 年度 (現状値)	平成 29 年度 (目標値)	平成 30 年度 (目標値)
1	麦	J A 愛知北版 G A P	ウ	実施面積	1.5	1.5	1.8
2	飼料用米	生産性向上の取組	イ	実施面積	2.6	2.6	3

※「分類」欄については、実施要綱別紙 15 の 2 (6) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成 30 年度以降の目標値を設定している場合は、「平成 29 年度 (目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、() 内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり